

プレスリリース

発信者 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会

理事長 下田 智久

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-27

TEL:03-3268-3134 FAX:03-3268-3136

e-mail:shogaikouho@jhnfa.org

<http://www.jhnfa.org>

発信日 平成 26 年 4 月 1 日 (火) 渉外広報室

## トクホ市場 **6275** 億円 前回、前々回を大幅に上回り、顕著に回復！

＝特定保健用食品の市場および表示許可の状況＝

特定保健用食品制度は 1991 年（平成 3 年）の発足から 22 年が経過し、国が健康強調表示を許可・承認する制度として国際的にも注目されています。

1993 年（平成 5 年）に表示許可第 1 号の商品が誕生し、2013 年 12 月末現在、特定保健用食品として表示許可・承認された食品は 1095 品目となっています。

当協会は特定保健用食品の制度発足以来、食品業界に対して許可取得のための関係省庁の行政方針および関連情報の入手・伝達を始め申請相談等の支援活動を進めるとともに、健康食品全般について消費者および関係先への情報提供等の活動を展開して参りました。

その一環として 1997 年から隔年に特定保健用食品の市場規模調査を実施し、行政・学術関係者、国内外のマーケティング関係者など各方面に資料として提供しております。

この度、2013 年 12 月から 9 回目のアンケート調査を実施しましたので、その集計結果を中心に市場規模の推定とともに、表示許可等の現状についてご報告させていただきます。

本報告の作成に当たり、当協会会員をはじめとした特定保健用食品を開発、販売している各企業から多大のご協力をいただいたことに深く感謝いたします。



本件に関するお問い合わせは 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品部 矢吹、中澤（Tel 03-3268-3132）または渉外広報室 福本（Tel 03-3268-3134）にお願いします。

## I. 市場規模調査

### 1. 調査方法

特定保健用食品の表示許可を取得した企業に対して、アンケート方式で 2013 年度の品目別販売見込額および販売経路別市場構成について調査を実施した。

アンケートは 2013 年 12 月末現在許可取得の品目数 1095 を持つ全企業 191 社を対象として行った。そのうち 183 社からアンケートを回収し（回収率 95.8%）、1073 品目、180 社について、回答が得られた（有効回答率 98.0%）。

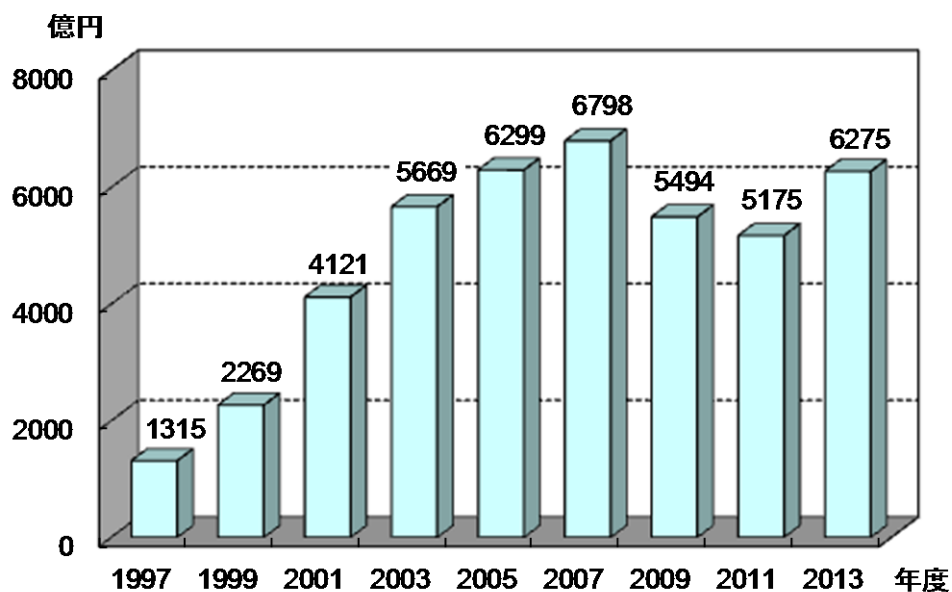
### 2. 集計結果

#### (1) 市場規模

特定保健用食品の市場規模は、1997 年度の調査開始以来、2007 年度まで調査毎に上昇し続けてきたが、前々回の 2009 年度に初めて減少し、2011 年度も引き続き減少した。

2013 年度の市場規模は 6275 億円（メーカー希望小売価格ベース）と推定され、2011 年度の市場規模 5175 億円に比べ 121.3%と大幅に上昇し、ピーク時の 2007 年度には届かなかったものの、前々回の 2009 年度の結果を上回った。（図 1）。

図 1. 特定保健用食品の市場規模の推移



## (2) 保健の用途別市場概況

保健の用途別市場規模の推移は以下のとおりであった（表1）。

**整腸**：中心となる乳酸菌関連品目は2007年度から減少し続けていたが、2013年度は前回より大幅に増え、ピーク時の2005年度を上回った。オリゴ糖関連品目も乳酸菌関連品目と同様に減少し続けていたが、前回の2倍以上と著しく伸長した。食物繊維関連品目も前回は大きく上回り、「整腸」全体としてピーク時を上回った。

**コレステロール**：調査開始以来、着実に増加を続けていたが、今回初めて減少した。

**血圧**：前回はピーク時の2007年度に近い水準まで回復したが、2013年度はほぼ横ばいであった。

**骨・ミネラル**：2009年度をピークに減少しており、2013年度は前回と比べやや減少した。

**歯**：許可品目数は伸びているもののトクホ上市アイテムの減少等が影響し、2005年度をピークに減少し続けている。

**血糖値**：2003年度をピークに減少傾向を示しているが、2013年度は前回からほぼ横ばいであった。

**中性脂肪・体脂肪**：2007年度をピークに減少したが、前回は回復傾向を示し、2013年度は許可品目数の伸びや新商品の影響もあり、前回と比べ大幅に増加した。

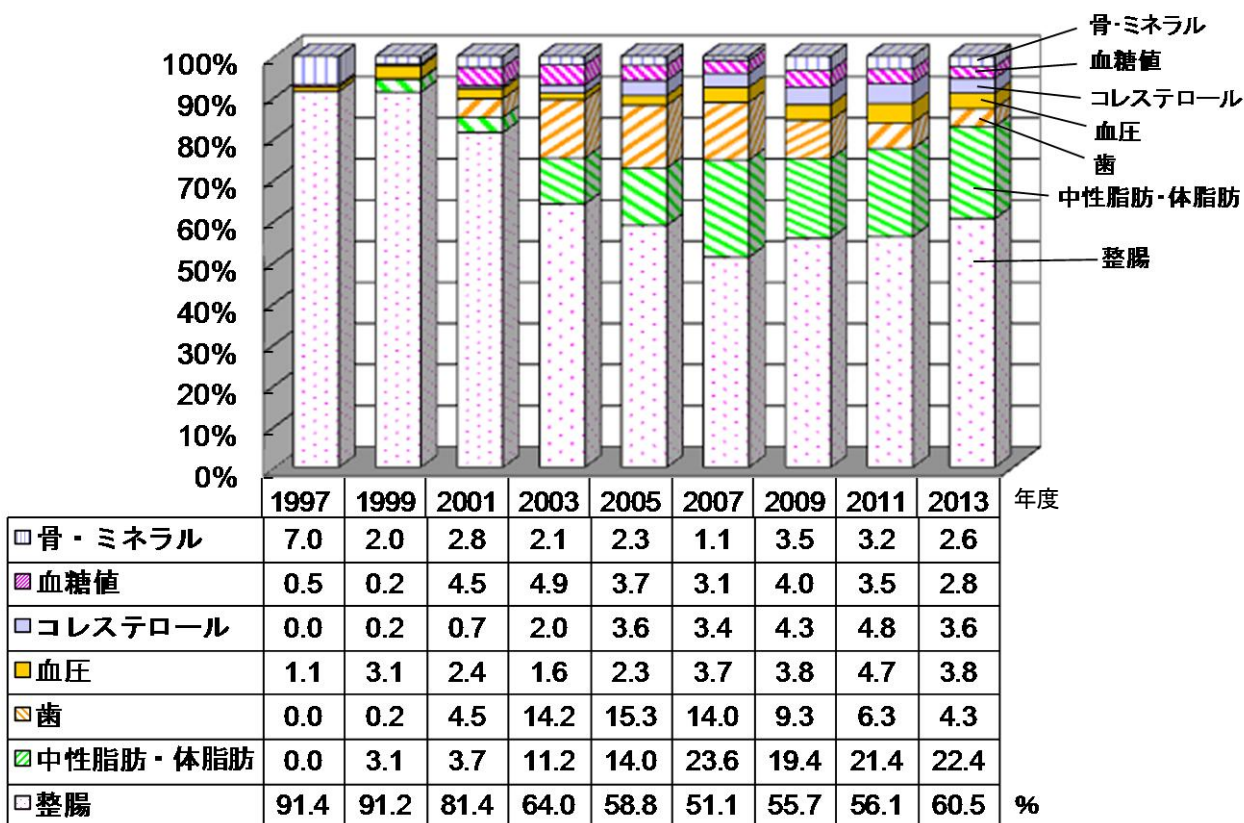
なお、保健の用途別構成比率は前回と同様に「整腸」が60.5%と最も大きく、「中性脂肪・体脂肪」が22.4%と続いた（図2）。

表 1. 保健の用途別市場規模の推移

年度

	1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009		2011		2013		
	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	09比(%)	億円	09比(%)	億円	11比(%)	
整腸	オリゴ糖	103.7	91.1	56.2	66.8	58.9	71.8	34.0	47.4	29.6	87.1	68.5	231.5
	乳酸菌	978.8	1863.0	3171.1	3420.8	3516.8	3249.3	2925.6	90.0	2764.2	94.5	3562.1	128.9
	食物繊維	119.1	115.5	128.1	141.8	129.9	152.5	104.6	68.6	107.0	102.3	165.4	154.5
	小計	1201.6	2069.6	3355.4	3629.4	3705.6	3473.6	3064.2	88.2	2900.8	94.7	3796.0	130.9
コレステロール	0.3	4.3	27.9	113.6	228.0	230.3	234.4	101.8	248.8	106.1	224.3	90.1	
血圧	13.8	71.6	100.0	88.1	147.7	250.5	208.2	83.1	244.9	117.6	241.0	98.4	
骨・ミネラル	92.0	44.9	113.9	120.1	143.3	73.3	192.6	262.8	166.7	86.6	160.3	96.2	
歯	0.0	3.7	186.7	804.8	961.0	954.0	512.0	53.7	325.9	63.7	272.4	83.6	
血糖値	6.7	5.2	184.3	277.4	232.9	210.5	215.9	102.6	180.5	83.6	176.6	97.9	
中性脂肪・体脂肪	0.0	70.0	152.4	635.4	880.7	1606.0	1067.1	66.4	1107.3	103.8	1404.6	126.8	
合計	1314.5	2269.3	4120.6	5668.8	6299.2	6798.2	5494.4	80.8	5174.9	94.2	6275.2	121.3	

図 2. 保健の用途別市場構成の推移



## II. 販売経路別および食品の種類別市場構成

### 1. 販売経路別市場構成

販売経路別市場構成は、「スーパー」、「戸配」、「コンビニ」が全体の約 8 割弱を占めており、2013 年度は、「スーパー」、「コンビニ」が増加した（表 2）。

また、「ドラッグ・薬局」が前回より大幅に増加し、構成比率も 10.5%となりほぼ倍増した。

一方、「通信販売」は金額的には小さいものの 2007 年度以降増加を続けているが、2013 年度における構成比率は減少した。

表 2. 販売経路別市場構成の推移

販売経路*	年度										
	1999	2001	2003	2005	2007	2009		2011		2013	
	%	%	%	%	%	億円	%	億円	%	億円	%
スーパー	49.4	47.2	40.3	42.3	42.5	2,406	43.8	2,035	39.3	2,521	40.2
コンビニ	12.6	14.6	15.6	14.7	16.0	890	16.2	696	13.5	888	14.2
戸配	30.8	30.8	34.4	32.8	33.2	1,456	26.5	1,590	30.7	1,502	23.9
ドラッグ・薬局	4.1	3.8	3.0	3.1	2.7	297	5.4	307	5.9	662	10.5
通信販売	0.7	1.0	0.8	0.7	0.9	132	2.4	162	3.1	179	2.9
その他	2.4	2.6	5.9	6.4	4.7	313	5.7	385	7.5	523	8.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5,494	100.0	5,175	100.0	6,275	100.0

\*2009 年度までは、販売経路選択は複数回答としている。

## 2. 食品の種類別市場構成

食品の種類別の市場構成を4種類に区分して調査を行った(表3)。

2013年度は、「加工食品・調味料」は大幅に減少し、「菓子・その他」も減少した。一方、2007年度以降ほとんど変化のなかった「清涼飲料水」の構成比率は28.6%と伸長した。また、「乳製品」の構成比率は57.9%と伸長し続けている。

表3. 食品の種類別市場構成の推移

食品の種類	2007		2009		2011		2013	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
清涼飲料水	1,665	24.5	1,315	23.9	1,247	24.1	1,797	28.6
乳製品	3,285	48.3	3,012	54.8	2,840	54.9	3,635	57.9
加工食品・調味料	879	12.9	599	10.9	636	12.3	428	6.8
菓子・その他	969	14.3	568	10.4	452	8.7	415	6.7
合計	6,798	100.0	5,494	100.0	5,175	100.0	6,275	100.0

### 【食品の種類】

1. 清涼飲料水：茶系飲料、炭酸飲料、果実飲料、ミネラルウォーター、ゼリー飲料、コーヒー、粉末清涼飲料（インスタントコーヒー等）など
2. 乳製品：乳酸菌飲料、はっ酵乳など
3. 加工食品・調味料：大豆加工品、穀物加工品、食肉・魚肉加工品、調理油、マーガリン、マヨネーズ、調理酢、甘味料など
4. 菓子・その他：キャンディー、クッキー、ビスケット、チューインガム、ナタデココ、あられ、チョコレート、錠剤、粉末、顆粒、乾燥スープ、即席みそ汁、青汁など

### Ⅲ. 表示許可・承認の状況

#### 1. 表示許可・承認品目の推移

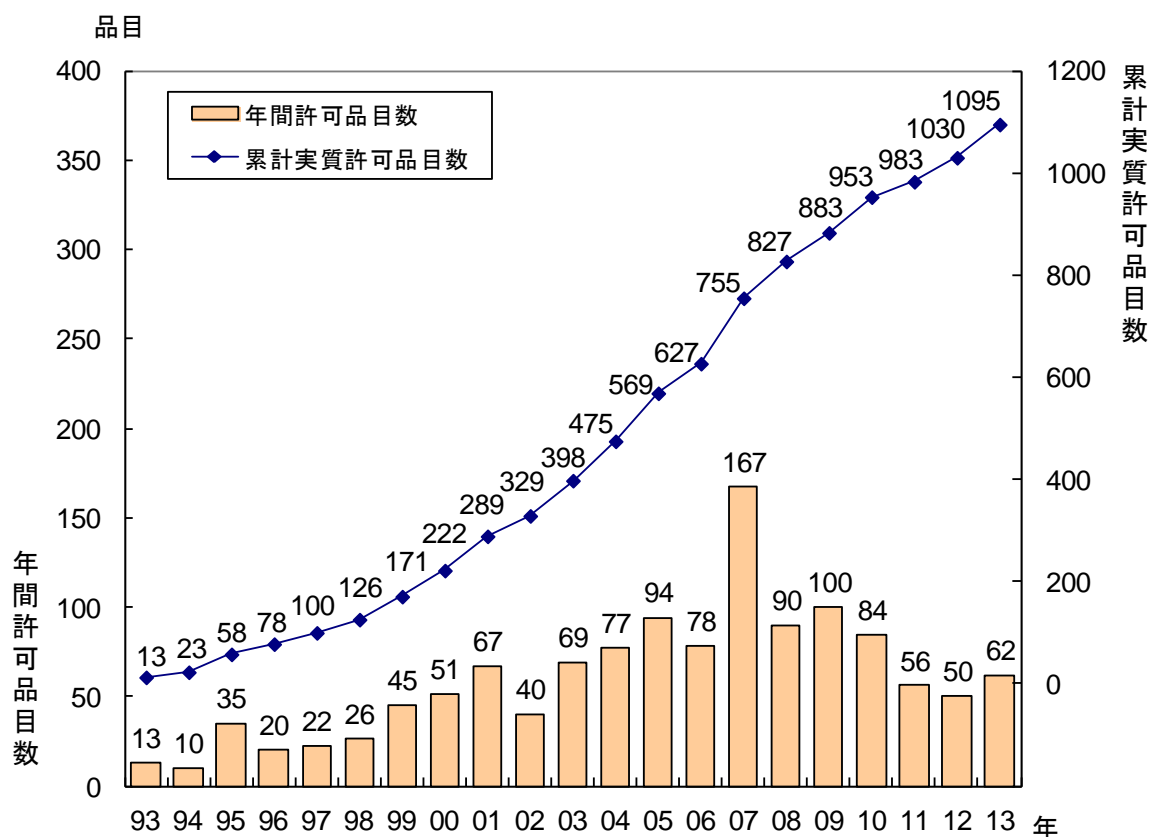
2013年12月末現在の表示許可・承認の品目総数は1095であった(図3)。

2011年1月から2013年12月の2年間に表示許可を受けた特定保健用食品は112品目であり、うち2013年1年間は62品目であった。

また保健の用途別の内訳では、「中性脂肪、体脂肪」が33品目増と最も多く、許可品目数の最も多い「整腸」は22品目増であった(表4)。

申請区分の内訳でみると、最も許可品目数の多い「特定保健用食品」は25品目増となり、前回増加分を上回った(表5)。続いて許可品目数の多い「再許可等」は52品目増と前回と同様に最も多かった。「規格基準型」は33品目増となり大幅に増加した。

図3. 表示許可・承認品目の推移(2013年12月末現在)



\* 累計実質許可品目数 = 累計許可品目数 - 同失効品目数

表 4. 保健の用途別許可品目の推移

		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009	2011	2013	11比
整腸	オリゴ糖	40	53	62	62	76	78	77	82	87	5
	乳酸菌	8	36	55	61	69	75	77	81	82	1
	食物繊維	24	32	50	70	104	144	169	192	208	16
	小計	72	121	167	193	249	297	323	355	377	22
コレステロール		12	14	37	52	86	114	136	139	146	7
血圧		4	9	24	38	64	88	110	119	126	7
骨・ミネラル		8	10	18	23	33	44	51	57	63	6
菌		3	5	13	26	34	58	68	75	86	11
血糖値		1	3	19	49	72	100	131	148	174	26
中性脂肪・体脂肪		0	9	11	17	31	54	64	90	123	33
合計		100	171	289	398	569	755	883	983	1095	112

品目

表 5. 申請区分別許可品目の推移

申請区分	2007	2009	2011	2013	11比
特定保健用食品	524	517	533	558	25
条件付き特定保健用食品	1	1	1	1	0
特定保健用食品(規格基準型)	16	28	47	80	33
特定保健用食品(疾病リスク低減表示)	5	10	14	16	2
特定保健用食品(再許可等)*	209	327	388	440	52
合計	755	883	983	1095	112

品目

\*2013年は「疾病リスク低減表示」10含む



#### IV. むすび

総務省の家計調査では、2013年の1世帯平均の食料年間消費支出は全国平均で780,450円と2011年766,320円に比べわずかに増加した。長引く景気の低迷と人口の減少傾向も続いており、消費行動は慎重であるが、一方ではデフレ脱却に向けた政府の取組みもなされている。

調査開始以来、2007年度をピークに減少し続けていた特定保健用食品の市場規模は、2013年度は前回、前々回を大幅に上回り、6275億円まで回復した。

2013年度は前回から2年間の実質許可品目の増加は112品目と2009年度調査から2年間の100品目に比べわずかの上昇にとどまったが、市場規模は前回までの減少から大幅な回復に転じた。

トクホ制度発足以来、トクホ市場を牽引してきた「整腸」分野は2005年をピークに減少し続けてきたが、2013年度は既存商品の伸長に加え新発売の商品の寄与もあり、前回に比べ一転して30.9%の増加となった。この伸びが継続するか今後の推移が注目される。またメタボリックシンドロームの診断基準に関連する保健の用途では、「コレステロール」、「血圧」、「血糖値」は、2013年度は、減少かほぼ横ばいであったが、「中性脂肪・体脂肪」の顕著な伸びにより全体では約15%増となった。「中性脂肪、体脂肪」分野では、前回から2割以上の増加となり、消費者の関心の高さが窺われた。

現在、2012年度に当協会で行った消費者庁委託の「特定保健用食品の審査基準の検討事業」の報告書を受けて通知の改正と審査基準の明確化がすすめられている。また、規制改革会議で取り上げられた審査の迅速化やわかりやすい表示の実現に向けて様々な取組みが行われている。これにより、開発企業の新たな関与成分や保健の用途へのチャレンジがなされ、特定保健用食品市場の本格的な回復につながることを期待される。

当協会は今後も消費者庁をはじめ関係各省庁等の指導を得ながら、会員企業と協力して消費者に対する正しい使用方法等の情報提供を推進し、特定保健用食品の更なる普及に努めていきたい。

以上